

ねん がつとおか
2023年9月10日

ねんかんだい しゅじつ
年間第23主日

きくち いさおだい しきょう
菊地 功大司教 メッセージ

わたしたちは、人生の旅路の中で、決して一人で置き去りにされることはありません。
わたしたちは、「世の終わりまでともにいる」と約束された主が、常に歩みをともにして
くださると信じています。

その主は、わたしたちを共同体へとつないでくださいました。実際に手をつないで歩ん
でいるわけではなく、実際の人生の旅路では、物理的に一人で歩みを進めることもある
でしょう。しかしわたしたちは、主の名の下に集められた共同体に、信仰の絆で常に
つながっています。

この3年間のコロナ禍の間、感染対策のために離ればなれにならざるを得ない事態が続
いていたとき、わたしたちは普及したインターネットによって、互いにつながっている
という感覚を持つことができました。わたしたちの信仰の絆は、インターネットの絆
以上の存在です。その絆は、神の与えた掟によって結び合わされているからです。パ
ウロはローマ人の手紙に、「どんな掟があっても、隣人を自分のように愛しなさいとい
う言葉に要約されます」と記しています。その相互の愛の絆によって、わたしたちは物
理的に離れていてもつながっており、世界中の兄弟姉妹とともに、一つの共同体を作
り上げています。

主の名によって集められたその共同体には、主御自身が常に存在されます。「二人また
は三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいるのである」。

この主御自身の存在によって結び合わされたわたしたちは、感謝の祭儀に与ることで、
朗読される御言葉のうちに現存される主と出会い、ご聖体の秘跡のうちに現存される主
をいただきます。

わたしたちを結び合わせる掟の中心にある「隣人愛」とは一体何なのでしょう。「自分

のように愛する」^{あい}とは一体^{いったい}どういうことでしょう。それはただひたするに優しく^{やさ}することでもなければ、自分の^{じぶん}思い^{おも}を押しつけることでもありません。それは、自分自身^{じぶん}が生きて行く^いことを肯定^{こうてい}しているのと同じように、交わる^{まじ}他者^{たしや}がいのち^いを生きていくことを肯定^{こうてい}する態度^{たいど}であります。生きるための希望^{きぼう}は、互^{たが}いに支え合う^{ささあ}交わり^{まじ}の絆^{きずな}を確認^{かくにん}するところから生^うみ出^だされます。すなわち連帯^{れんたい}こそが、生きる希望^{きぼう}を生^うみ出^だします。そこに隣人愛^{りんじんあい}の根本^{こんぽん}があります。

常^{つね}にともにいてくださる主イエスこそ、わたしたちがいのち^いを生きようとする思い^{おも}を肯定^{こうてい}し、支^{ささ}えてくださる方^{かた}です。わたしたちがいのち^いを豊かに^{ゆた}生きる希望^{きぼう}を生^うみ出^だすことができるようにと、道^{みち}をともに歩^{あゆ}まれる方^{かた}です。その愛^{あい}をわたしたちは心^{こころ}にいただき、主^{しゅ}と一致^{いつち}しながら、さらに愛^{あい}の絆^{きずな}を多く^{おお}の人^{ひと}へと広^{ひろ}げて参^{まい}りましょう。